

26 でん さる まる だ ゆう はか 伝・猿丸太夫の墓



指 定 町指定史跡 昭和 48 年（1973）4 月 20 日

所在地 むらさきえんいしきりざか 佐川 紫園 石切坂

猿丸太夫は三十六歌仙の一人。生没年不詳。

「小倉百人一首」に猿丸太夫の作として、以下の和歌が採られている。

おくやまに もみぢふみわけ なくしかの こゑきくときぞ あきはかなしき

「猿丸太夫」の名称は『六国史』等の公的史料に登場しないことから本名ではなく、その出自も弓削王説、弓削皇子説、道鏡説など諸説あるが、土佐に関係のある人物としては、弓削浄人【生没年不詳、奈良時代（710～794）の公家。弓削道鏡の弟】が挙げられる。

弓削浄人は、ほうき宝亀元年（770）の道鏡の失脚に伴って土佐へ流罪され、ここ猿丸山に居住したといわれており、上記の歌もここから尾川方面を眺めて作ったといわれている。

天応元年（781）赦免され、本国である河内国に戻ったが、再度の入京は許可されなかった。本石塔は墓というよりは供養塔である可能性が大きい。

27 し の だ い どう け つ い せ き 城ノ台洞穴遺跡



サカワオオカミの骨



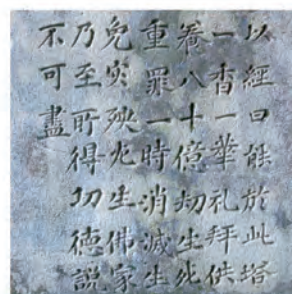
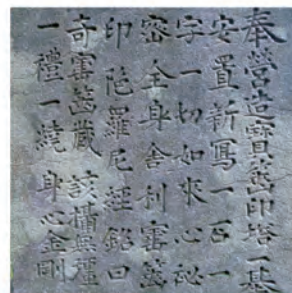
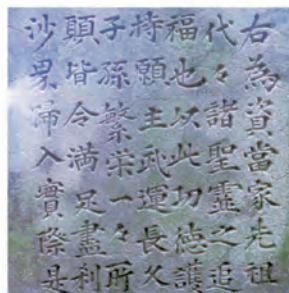
城台洞穴遺跡発掘風景（昭和 16 年）

指 定	町指定史跡 昭和 48 年（1973）4 月 20 日
所在地	佐川 虎杖野 ^{いたずりの}
年 代	縄文時代早期後半

石灰山中腹にあった洞穴は西方に入口があり、入口径 2 メートル、ここから 4～5 メートルの横穴があって、そこから傾斜角 40 度で下降していた。内部には黒褐色土の堆積があり、中には土器等の遺物とともに大小の石灰岩が混じっていたとのことである。現在は石灰岩の採掘や国道建設により跡形もない。

この洞穴は昭和 16 年（1941）に調査され、押型文土器、^{おしがたもん ど き} 敲石、^{たたきいし} 打製石鏃^{だ せいせきぞく}が発見された。主となる獣骨は、サカワオオカミ、シカ、イノシシ等、他にオオカミの咬痕の残る人骨も出土している。

28 ほうきょういん とう 宝篋印塔 1 基



基礎の周囲に刻まれている銘文

指 定	町指定史跡 昭和 59 年（1984）9 月 18 日
所在地	佐川 紫園 深尾神社
年 代	江戸時代 嘉永 7 年（1854）
高 さ	総高 2.46メートル
材 質	砂岩

宝篋印塔は、宝篋印陀羅尼經を納めておく塔で、下段から基壇、基礎、塔身、笠、相輪で、笠の隅飾が時代相を表す。基礎の周囲に武運長久、子孫繁栄等の銘文が刻まれている。

各部に折損や経年劣化による倒壊の恐れも出てきたため、直下の深尾神社境内地に平成 27 年（2015）移設された。

29 う じ たに がわ いち まい おお いし ばし 宇治谷川一枚大石橋



嘉 永 四 年 辛 酉
成 亥 年 永

指 定	町指定史跡 平成 10 年（1998）1 月 26 日
所在地	加茂 ほんむらひがし わた つ み 本村東 海津見神社
年 代	江戸時代 嘉永 4 年（1851）
寸 法	長さ 4.0メートル 幅 2.2メートル 厚さ 0.35メートル
材 質	砂岩

この大石を用いた橋は、松山往還の宇治谷川に架橋されていたもので「一枚岩の大石橋」として旅人や道行く人々によって広く知られていた。

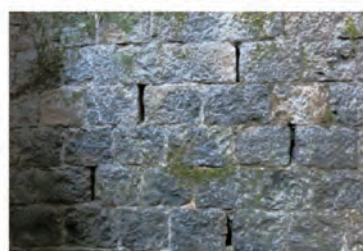
この大石は、加茂本村の山中から多くの村人の手によって運び出され架けられたもので、死者も出たといわれている。この難工事を見事成し遂げた住民の苦労が偲ばれると同時に、当時の道路事情を物語る貴重な語り部である（一部欠損あり）。

側面に竣工の銘が刻まれている。

30 さん しゅ ちょ そう ふう けつ あと 蚕種貯蔵風穴跡



石板の銘



貯蔵施設内の風穴

指 定	町指定史跡 平成 30 年（2018）1 月 7 日
所在地	斗賀野 はぶのかわ 埴生ノ川
年 代	明治 45 年（1912）
寸 法	縦 2.8メートル 横 2.8メートル 深さ 3.5メートル
材 質	砂岩

養蚕は当時の日本経済を支える産業として、特に地方の農家にとっては現金収入の糧として大いに賑わったものである。

この蚕種貯蔵風穴跡は、冷蔵設備の発達していなかった当時に造られた施設であり、高知県下でも蚕種貯蔵風穴の報告例はここだけであり、産業遺産としても大変貴重なものである。

貯蔵室は、地面を 3.5 メートル掘り下げ、2.8 メートル角^{むろ}の室を造り、周囲を切石とモルタルで組み上げ、壁面には冷気の通る隙間を上部と下部を除き一段につき 1 箇所設けて冷風が移動するようにしている。室上部は蓋を付け、小屋が作られていた。

石板の銘には、経営者 高陵蚕種組合、企業者 明神猪之助、石工 中村兼太郎、坂東成記、大工 麻田重吉の名があり、工費金として郡補助金 87 円を受けている。

31 なが の こしき いわ 永野の甑巖



甑巖神社

指 定	町指定名勝 昭和 48 年（1973）4 月 20 日
所在地	斗賀野 かわはら だ 川原田 甑巖神社
寸 法	高さ 3.0メートル 周り 6.0メートル
祭 神	うかのみたまのかみ 宇迦之御魂神
材 質	石灰岩

永野の甑巖は甑巖神社本殿の背後にあり御神体とされる。周囲約 20 メートルある舟形石の上に、甑（米を蒸す器具）状の岩が乗り、まるで釜に甑を掛けているさまに似ており、はるか昔の原始信仰が偲ばれる。

32 ワカキノサクラ



指 定 町指定天然記念物 昭和 48 年（1973）4 月 20 日

所在地 尾川 ^{なかむら} 中村

分 類 バラ科 サクラ属

尾川地区中村の尾川城山で発見されたヤマザクラの珍種で、原産地はここだけだといわれる。かつては自生が見られたが現在では絶滅し、栽培されているものだけが残っている。

牧野富太郎は、佐川町に栽培されていたものに学名を「プリヌス オガワナ」と命名した。

^{みしょう}実生の翌年 10 数センチの稚木に可憐なヤマザクラ風の花をつける。落葉低木で樹高は 2 ～ 4 メートル。樹皮は縦裂する傾向がある。花弁は 5 枚、白色で基部がわずかに淡紅紫色を帯びる。果実は黒く熟し苦味がある。

コザクラ（小桜）、若木のさくら、佑清ざくらなどの別名もある。

33 サカワサイシン



指 定 町指定天然記念物 昭和 48 年（1973）4 月 20 日

所在地 佐川町全域

分 類 ウマノスズクサ科 カンアオイ属

佐川町近郷の低山地にのみ植生する多年草。和名は牧野富太郎が佐川町で国内で最初に発見したことにちなんだもの。

地下茎や葉の様子は、他のカンアオイ属とほとんど同じ。4～5 月頃、根元に花をつけ、そのがく片は 3 裂し、ウサギの耳状に尖形^{せんけい}をなして長さ 3～5 センチ、肉質で硬く、内側は濃紫黒色で光沢があり、縁は白色をなしているのが特徴である。

34 なが の おお くす 永野の大樟 1 株



神社を覆う大楠



鈴神社

指 定 町指定天然記念物 昭和 48 年（1973）4 月 20 日

所在地 斗賀野 うさぎだ すず 鈴神社

祭 神 すさのおのみこと 素盞鳴尊

分 類 クスノキ科 クスノキ属

大きさ 目通幹周り 約 6メートル 樹高 約 30メートル

樹 齢 約 450 年

そうし しょう
双子葉植物、常緑高木のこの木は、鈴神社境内で1段高く切り立った大岩の上に根付き大木へと成長している。

昭和 42 年（1967）頃、じゅうどう 樹洞の中で子どもの火遊びにより火災となり、樹勢への影響が心配されたが、地区民の手当てにより、樹洞は樹皮が巻き塞がれ樹勢も以前より増したように感じられる。じゅかん 樹冠は社に覆い被さるように拡がり、梢は他の木々に抜きん出て圧倒的な存在感で鎮守の杜を形成している。